



「アクセス」とは、情報に近づく道のこと。家庭科の先生方の日々の授業に役立つ資料を、折に触れお届けいたします。

生活の話題

ずれて、わかること

森 達也

子どもの頃からずれていた。どうしても集団行動ができない。孤立を気取っていたわけではない。そもそもそんな自意識を持てるような年齢ではない。

でもずれる。たぶん転校生であったこと（小学校で三回、中学校で一回）や、吃音であったこと、重度の方向音痴であったことなども要因だったと思うけれど、でもそれだけじゃない。

とにかくいつも道に迷っていた。致命的に場を読めない。遠足に行けば、気がつけばひとりになっている。家庭科の時間には、裁縫の向きがひとりだけクラス全員と違う。運動会の行進では、いつのまにか他のクラスに紛れ込んでしまっている。そんなことは常にあった。

大学を卒業してからテレビディレクターとなり、やがて自主制作映画を作り、その後は執筆が自分にとっての日々の糧となった。いろいろと仕事の領域が変わってしまった理由に、僕自身のこの周囲との「ずれ」と、場を読む能力に欠けていることが影響していることは間違いないだろう。まあでも、結果としては何とかなっている。今のところは家族五人、贅沢はできないが飢えることはない。

映像と音のメディアが誕生した二十世紀初頭、広範なプロパガンダが可能になり、ファシズムなる政治体制が同時多発的に世界に生まれた。プロパガンダによって形成される民意や世相は、言い換えれば多数派から形成される場を意味する。この場に馴染みすぎること、人に過ちを犯す。特に一極集中・付和雷同の傾向が強い日本人はこの過ちを犯しやすい。

結果として僕はずれた。なぜなら最初からずれかけていたから。でもそのおかげで、普通の人気がつかないこと、目に入らないことを知ることができた。

だから提案。時にはずらすこと。メディアの見方はもちろん、掃除の手順や材料の選択、アイテムは何でもいい。日常の中にずらせる要素はいくらでもある。

たぶんこの世界は、これまでとは違う側面をあなたに見せてくれるはずだ。

もり たつや 映画監督、作家。メディアリテラシーを実践したドキュメンタリー作品を制作している。オウム真理教を取材した映画『A』『A2』や、『ドキュメンタリーは嘘をつく』など著作も多数。10代の若い読者を対象とした本に『いのちの食べ方』などがある。



特集

家庭科で身に付ける、批判的思考力

CONTENTS

生活の話題
ずれて、わかること
森 達也 1

家庭科再発見
米国家庭科の実践的推論
プロセスに学ぶ
問題解決力や批判的思考力を
家庭科でどう育むか
荒井紀子 2

実践レポート
身近な素材から、
自分の生活を見つめ、
社会問題を考える
河岸美穂 4

Information File
メディア紹介 BOOK 6

教育課程情報 7

米国家庭科の実践的推論プロセスに学ぶ 問題解決力や批判的思考力を家庭科でどう育むか

荒井 紀子

はじめに - 問題解決能力の育成と家庭科

家庭科は、人の命や暮らしについて直接的に学ぶことのできる教科である。生活にかかわる知識や技術を学び、それを生活に生かし実践することが目指されるが、ここでいう「実践」とは、単に今ある生活を賸い適応することだけを意味するわけではない。生活の問題に気づき、その解決方法を考えて実行し、新たな生活を主体的に「つくる」力を養うことが家庭科の重要な目標といえる。ここで必要となるのは、現実を冷静に見据え、何が問題かを把握し、改善や解決の方法を吟味するための批判的思考力であり、それを実行する総合力としての問題解決力である。

日本では、家庭科の誕生以来、一貫して問題解決力の育成がめざされてきており、その学習方法としては、米国の家庭科の影響のもとで、「Plan-Do-See」(略PDS)すなわち、「計画 実践 反省・評価」が提唱されてきた。教科書においても、このステップを踏んだ学習例が掲載されており、多くの授業が試みられてきた。

しかし、PDSでは、具体的に学習をどう展開するかについては必ずしも明らかではなく、教師は生徒の主体的な学びを引き出す学習の進め方や、支援の仕方に、困難をかかえているという現実もある。実際、大学生からは、高校のホームプロジェクト学習を振り返って「問題解決学習といっても、問題のテーマはすでに決められていて、それに対して工夫してとりくむというものだった」とにかく『考えなさい』『調べてまとめなさい』といわれて発表したが内容は覚えていない』といった声も聞かれ、現場での学習の進め方の難しさが想像される。

では、家庭科において、問題解決学習はどう進めたらよいのだろうか。また、PDS発祥の地の米国では、学習はどう取り組まれてきたのだろうか。

本稿では、米国における家庭科教育と問題解決学習のパラダイム転換の軌跡に焦点を当てて、この問題について考えてみたい。

米国の家政学，家庭科改革と実践的推論プロセス

米国では、1970年末に、教育学者のマジョリー・ブラウンとベアトリス・パオルッチの共著により、「家政学・定義」¹⁾という画期的な論文が執筆された。米国家政学会から、新時代に対応した家政学の再定義を依頼され、著わされたこの論文のなかで、家政学の使命

は「個人の単位としての、また社会の一組織としての家族が、各々の自己を豊かに育むとともに、社会の目標の形成と評価に参画し、目標達成の方法をみつけるための、行動システムをつくり維持できるようにすること」と定義されている。両氏は家政学が個人や家族の安寧に寄与するだけでなく、社会的な安寧の実現にかかわる積極的な意味をもつものであると主張し、パラダイムの転換を促したのである。

ブラウンは家庭科教育についても言及した²⁾。家庭科の目標は、生徒が批判的、創造的かつ道徳的責任感のある家族およびコミュニティーのメンバーに成長していく手助けをすることであると論じ、家庭科が、自治能力のある民主的な市民を育てることに関わる教科となることの重要性を提起した。これまでの家庭科は「家庭生活に科学的知識や専門的技能を応用し、その学習目標の到達を重視」する、いわゆる実証分析科学にもとづく教科であった。それを「家族やコミュニティーにおける実践的な問題に取り組むなかで批判的リテラシーを獲得し、その学習プロセスそのものを重視」する、批判的科学的にもとづく教科へパラダイム転換する必要性を提起したのである。このブラウンの問題提起は、家政学、家庭科教育関係者の間に大きな反響を呼ぶとともに共感をもって受けとめられ、結果として家政学と家庭科カリキュラム理論に大きな転換がもたらされた。

その中核となる理論が、批判的リテラシーを獲得する学習論としての「実践的推論プロセス」(Practical Reasoning Process)である。ここでいう批判的リテラシーとは、既存の価値や現状を受身的に鵜呑みにするのではなく、注意深く冷静に分析して新たな判断や行為を決定するための思考能力にかかわるものである。このブラウンの理論にもとづいて、1980年代以降、オハイオ州、ウィスコンシン州、ミネソタ州などの州レベルの家庭科関係者の協働の取り組みの中で、優れた家庭科カリキュラムが生み出されてきた。

実践的推論プロセスとは何か

オハイオ州で家庭科カリキュラム開発に中心にかかわったジャネット・ラスターは、実践的推論について次のように述べている。

「いわゆる実践的な問題は、家族や地域社会の毎日の状況の中で、自然に、かつ不確かななかたちで生じる



あらいのりこ
福井大学教育地域科学部教授。専門は家庭科教育学。主な著作(共著)に「生活主体を育むー未来を拓く家庭科」(ドメス出版)「生活をつくる家庭科 実践的なシチズンシップ教育の創造」(ドメス出版)、「家庭科教育試論」(めばえ社)などがある。

ので、人は確信をもてない状況の中で論理的に考えなければならない。個別の実践的問題のなかには、知識や経験が得られれば個人で、あるいは他の人を通して解決することができる問題もあるだろう。しかし、人間関係や健康、安全性、公的な政策などといった人や社会的事象を含む問題の場合は、問題の背景や文脈をつかみ、実践的な推論をとおして『何をすべきか』を判断する必要がある。³⁾

また、ラスターは、実践的問題解決学習のプロセスについて以下のような4つのステージで説明している。

- (1) 問題への着目(関心のある実践的課題や社会的問題の情報を収集し、何が問題かを探る)
- (2) 実践的推論(問題解決に必要な知識や行動の理解、背景や文脈の整理、価値や目標の追求)
- (3) 批判的思考と判断(多角的な視点から問題解決行動の選択肢を分析し価値づけ、判断する)
- (4) 行動とその評価

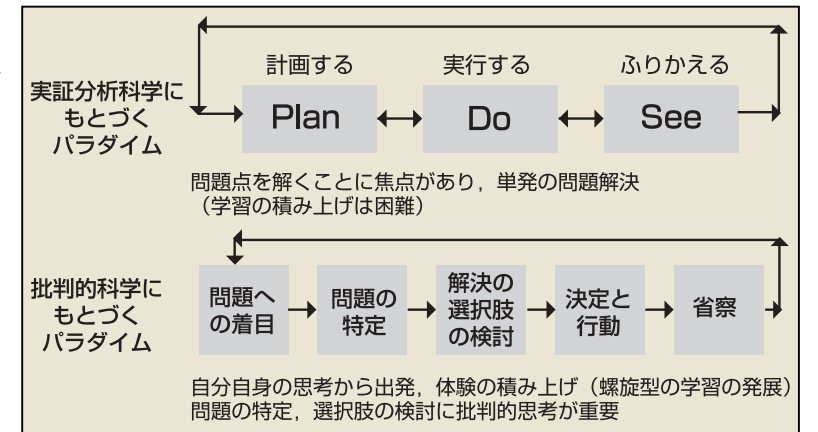
この学習の中心となるのは、教師から生徒への、生徒同士の、あるいは生徒自身の「問い」かけである。「問題の状況をどう把握するか」「その背景要因は何か」「どのような選択肢や代替行動があるか」「行動の影響は何か」「その情報は信頼できるか」「何をするのが最善か」「事実や価値がその選択の裏付けとなっているか」...これらの問いをある種の触媒として、生徒は多角的に思考を深め、問題の背景と文脈をつかみ、何をすべきかの選択を決断し、そうしたプロセスの積み上げの中で批判的リテラシーを獲得していく。

PDS と実践的理論プロセスはどう違うか

図1は、従来の実証分析科学に対応した問題解決学習(上段:PDSが対応)と、批判的科学的に対応した学習(下段:実践的推論プロセスが対応)とを対照して図式化したものである。

PDSと実践的推論プロセスはともに問題解決をめざす学習であるが、そのステップの押さえ方に大きな違いがある。前者が問題を解くことに焦点があり、単発の問題解決であるのに対し、後者は、先述のラスターの論のように、生徒自身の思考から出発し、体験の積み上げを重視し、生徒の思考を深めるための学習の道筋が丁寧に設定されている。特に、PDSで「Plan」と

図1 PDS(Plan-Do-See)から批判的思考を育む実践的推論プロセスへ



(筆者作成)

示した部分は後者では、生徒自身の問題の着目と問題の特定を追及する重要な部分と捉えられており、PDSの「Do」の部分には、実践的推論の手法を用いて、選択肢の十分な検討が学習の中に組み込まれている。

おわりに

米国では、学会での議論を通して、家庭科のめざす課題が、「生活技術力の獲得」から、「個人・家族の実践的問題にとりくむ力の獲得」へと、パラダイムの転換が図られ、そのなかで、生徒に批判的リテラシーを獲得させる学習論として実践的推論プロセスが編みだされてきた。翻って、日本においては、現代的課題に対応した家庭科の重要性について共通理解はされてきているが、掘り下げた議論には至っておらず、それを支える学習論の検討もまだ十分ではない。

今後、米国の実践的推論プロセスに学びながら、またPDSを省察的に振り返りながら、生徒の探究の道筋にそった問題解決学習のありかたについて、理論と授業研究の両面から明らかにしていく必要があると考えている。

参考・引用文献

- 1) Brown, M. & Paolucci, B.(1979) Home economics: A definition, American Home Economics Association
- 2) Brown, M.(1978) A conceptual Scheme and decision- rules for the selection and organization of home economics curriculum content. Wisconsin Department of Public Instruction
- 3) Laster, J.(2000) Assessment of Practical Reasoning, Home economics teacher education: Year book 20

身近な素材から，自分の生活を見つめ，社会問題を考える 『大豆』をテーマにして

石川県立金沢伏見高等学校教諭 河岸 美穂

1. テーマ設定のねらいと理由

ねらい 栄養価が高く，栄養のバランスもよい。豆腐や納豆など加工品の種類が多く，味噌，醤油などは古くから日本の食生活に欠かすことができない。豆腐などの加工品を作る過程で出る「おから」が産業廃棄物になっており，高額な処理費用がかかる。遺伝子組み換えやポストハーベストなど環境問題について考えることができる。材料も手に入りやすく，実習もしやすい。学校の近くにお豆腐屋さんがある。

理由 (1) 食生活への興味・関心を高める。
 (2) 1つの食べ物のことを深く考えることによって，他の食べ物についても意識を高める。
 (3) 自分の生活だけでなく，遺伝子組み換えやポストハーベスト等，食の安全性に関する問題について考える。
 (4) 自分たちが考えたことを広く社会に発信する力を育てる。

2. 学習課題・マトリックス

学習領域	A生活を自立的に営む	B生活に主体的にかかわる	C平等な関係を築きともに生きる	D生活を楽しみ味わい創る
くらしの営み 生活資源と	食生活 食生活と健康（食品と栄養） 食事を作る	食と環境 食糧問題（自給と輸入） 食品の選択と購入 食べ物を五感でとらえる 遺伝子組み換え食品	地域の人と食を通して，かかわる	嗜好と味覚
	情報生活 情報の収集 / 選択 / 判断	生活情報の活用と発信		情報ネットワークの活用

3. 授業の内容

学習項目	学習内容	教師の支援 / 生徒の声
1 興味関心度調査 豆について大豆の栄養	『大豆』の授業の始めに，大豆に関する内容の興味・関心度を記入する。大豆を中心にした，ウェーピングマップを書く。栄養が違う色々な種類の豆があることを知る。大豆はたんぱく質，脂質，炭水化物の他，多くのミネラル，ビタミンを含んでいる。Caは牛乳の2倍，Feはほうれん草の4倍以上，食物繊維も多く，日本書紀，古事記の時代から食されてきた。	ウェーピングマップの書き方を説明する。豆の実物を見せ，配る。 未成熟大豆が枝豆とは知らなかった。
2 大豆の加工品	栄養価の高い大豆がいろいろな加工品になっている理由を考える加工品の実物を見ながら，製造方法を知る。味噌（赤，白，あわせ，八丁）しょうゆ（濃口，薄口）の違いを知る。色々な種類・値段の豆腐を食べる。	「大豆の実物を見せ，配る。大豆，食べてもいいよ」 生の大豆は硬い，まずい 大豆の加工品を用意する。 「豆腐って作れるけど，作ってみよう？」 作る。作る！ 38円 いつもこの味 この豆腐がおいしい 105円 かわった味
3 豆腐づくり	一晩水に浸けておいた国産大豆をミキサーにかけ液状にした後，煮る。布袋に入れて絞った後，にがりを入れ，ザルに布を引いて，液体を固める。できた豆腐を食べる。	前日から大豆を水に浸けておく 「おから料理をつくってみよう。」 しぼるのが大変！ おからがいっぱい出るんだね。 にがりの味がする それほどおいしくない 「近くにお豆腐屋さんがあるんだけど，行ってみたい？」 知っている！行ってみたい！
4 おから料理づくり 5 実習の振り返り 豆腐屋で聞きたいことを考える	前時のおからを利用して，うの花，おからハンバーグ，おから入りカボチャのグラタンを作る 村上豆腐店で質問することを考える	事前に，おからを利用した高校生向けのレシピを考えておく おからって，とってもおいしい！ 豆腐の量は少ないのに，おからはたくさん出たね。 おからをどう処理しているのか？ おからがどのくらい出るのが聞きたい。

6	村上豆腐店見学	学校から歩いて5分の村上豆腐店を見学する（豆腐と豆乳ゼリーを頂く） 質問 おいしい豆腐を作る時に注意していることは？1日どれくらい大豆を使うのか？1kgからできる豆腐の量は？おからはどれくらいできるのか？おからは売る以外，どう処理しているのか？この大豆を使っているのか？こだわりはあるのか？値段の差は味と関係するのか？何時から豆腐を作っているのか？etc...	事前の打ち合わせをしておく 管理職の許可，職員朝礼で連絡
7 8	おからについて，調べ学習	コンピュータでおからについての疑問を各自で調べる。各自が調べたことを付箋紙に書く。全員で疑問を分類し，まとめて模造紙に書く。	付箋紙を用意しておく。 「捨てられたおからはどうなっているの？」 おからについて調べたい。 処理費用に10億円!?1人1日，15g食べればいいんだって！ みんなに伝えよう！！ クラスみんなはおからのことを知っているのだろうか？ 「おからが流通していないのはなぜ？」
9	おからのお菓子作り	おからのよさを知ってもらうためにおからクッキーを作って，配る。	一緒に，アンケートを取ろう おいしい！おからが入っているのは，気がつかなかった
10	おからの減量対策	おからの処理費用を減らすためにできることは何かを各自考え，全員で模造紙にまとめる。	おからの大量廃棄はどうしたら解決すると思う？ ミクシィのおからのコミュニティに入ってみる。 村上豆腐店のおからの処理費用，1月3万円だって！！ 身近な村上豆腐店のおからを減らそう！
11 12 13	ポスター，レシピ作り	村上豆腐店の前に貼るポスターを考え，コンピュータで作成する。村上豆腐店で配ってもらう，おからレシピも同時に作成する。	村上豆腐店は入りにくい。入りやすいポスターを作ろう ポスターも作ってもいいか先生聞いて！ 高校生だと向こうが断りにくいから
14	遺伝子組み換え，ポストハーベストについての学習	資料から，遺伝子組み換え食品，ポストハーベストについて学習する	「豆腐店に行って，気付いたことは？」 「遺伝子組み換え，ポストハーベストって聞いたことある？」 「輸入食品の方が安いよ？安いのと高いのどっちを買う？」 「安全性はどこでカバーする？」 国産大豆を使った本物の豆腐を食べてみたい。 きき豆腐をもう一度したい！ 今までは健康のために食べていたけど，これからはいろいろな問題を意識しながら選び，食べていかなければならない。
15	まとめ 興味関心度・事後調査	今までの授業を振り返りながら，4種類の豆腐を食べくらべる。『大豆』の授業の最後に，事前に行った大豆に関する内容の興味・関心度を記入する。大豆を中心にした，ウェーピングマップを書く。	4種類の豆腐について，味の違いがよくわかった。

4. 批判的思考・探求場面

時限	探求場面	授業の中の問い	考えを深めるための支援や手立て	評価と考察 (思考は深まったか，深まらなかったか，その理由)
7 8	おからについての調べ学習	村上豆腐店に行って，気付いたことは？ 捨てられているおからはどうなっていると思う？ 調べてみたいと思わない？ おからが流通していないのはなぜ？	前時に村上豆腐店を見学し，豆腐やおからについて話を聞いた。 生徒が疑問点を調べたいという気持ちになった時にPCを使ってもらった。 ネットを使って調べ，わかったことを付箋紙に1項目づつ書いていった。 輪座になって話し合った。	深まった。 村上豆腐店に行ったことが身近な問題として，当事者意識を持つ，きっかけとなった。実際におから料理を作ったそのおいしさを実感したこと，食物繊維も多く健康的な食材であった点も大きい。
10	おからの減量対策	おからの大量廃棄はどうしたら解決するか？	身近な村上豆腐店のおからに注目させた。 みんなの発想を生かした。模造紙を利用することにより，全員で取り組むことが可能となった。	深まった 教師の意見を押し付けず，生徒の考えや意見を生かし，その実現のためにサポートした。
14 15	食の安全性について	遺伝子組み換え，ポストハーベストについて聞いたことはある？ 輸入品のほうが安いよ。安いのと高いのはどっちを買う？安全性はどこでカバーする？	輪座になり，自由に意見が出せるようにした。生徒に問いかけながら進めた。	深まったかどうかかわからない。 生徒が考える場，時間が少なかった。しかし，輪座で資料を見ながら，色々な意見が出て盛り上がった。

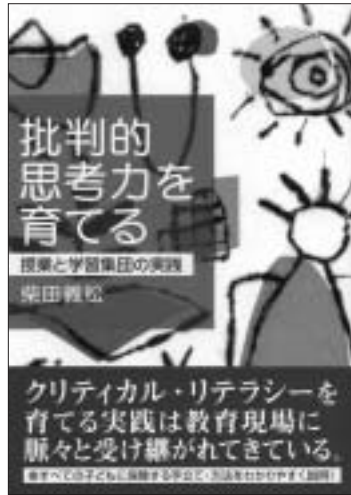
5. 大豆の授業を終えて

(生徒の感想，授業の様子から)

生徒の多くが積極的に授業に参加するようになりました。
 この授業を通して生徒との人間関係がよくなりました。課題提出をいやがらなくなり，廊下で会うと，自然に会話が生まれます。
 年度当初の授業はぐったりして，顔を上げていられないことが多かったのですが，Aさん(女子)が「大豆」の授業では生き生きとだし，自分の意見を積極的に言いはじめました。9時限で作成したおからのお菓子を村上豆腐店に持って行くときも進んで行きました。食物に対する，興味・関心が高まることで，学校生活も生き生きとしてきました。H君(男子)の感想には，「なぜよりによってジミな『大豆』!?とか思ったけど，学習してみると『大豆』1つだけでもいろいろな問題や今まで知らなかった事実があつたためになったと思うし，『食』って難しいなと感じた。」とありました。Cさん(女子)は毎回，今日の授業は何をするのかと職員室に聞きに来ていました。

(金沢大学・綿引伴子准教授との共同研究による)

メディア紹介 BOOK 批判的思考力を身に付ける3冊+1



『批判的思考力を育てる 授業と学習集団の実践』

- 柴田義松 著
- 日本標準 / 定価 2,100円 (税込)

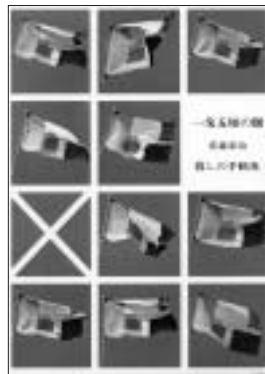
なぜ批判的思考力を身に付けなければならないのだろうか。本書の前書きで作者はストレートに述べている。それは、情報化時代の今日、「押し寄せる情報の流れにそのまま身をまかせている場合、この情報化社会のなかでは、とんでもない落とし穴におちいる危険が少なからずあるからだ。そのためには・・・」。以下では、批判的思考力とは何かを定義し、それを生徒に身に付けさせるための手立て・方法が具体的に提示してある。

作者の提案する「学習集団論」「学びの共同体」とは、何でも気楽にもの言える雰囲気での学習集団をつくる中で、批判的な思考力を育てるということである。戦前から脈々と教育現場に受け継がれてきているというその実践の具体例として、石橋勝治、井関義久、山本典人、大西忠治等の優れた授業が詳しく紹介されている。特に大西の授業で、生徒との丁々発止の言葉の投げあいの記録は、生のセリフがそのまま使われていて非常にドラマチックだ。

本書で取り上げているのは、「吟味読み」ということで国語の授業がほとんどだが、その指導法はすべての教師にとって参考になるに違いない。

『一菱五厘の旗』

- 花森安治 著
- 暮しの手帖社 / 定価 2,415円 (税込)



「暮しの手帖」の初代編集長、花森安治は名物企画<商品テスト>について、「消費者のためにあるものではない」と断っている。「じつは生産者のためのものである」と。広告をとらず、はっきり商品名をあげてよしあしを公表することで、売れるものを作るだけのメーカーに、よい商品を作ってほしかったのだ。徹底的に生活者の視点で雑誌をつくり上げた花森の力強いメッセージがある。

『つっこみ力』

- バオロ・マツツアリーノ 著
- ちくま新書 / 定価 735円 (税込)



「つっこみ力」とは外来語である「メディア・リテラシー」に著者(ペンネームを用いているが日本人である)が命名した言葉。まるで漫才のボケとツッコミのようだが、本書も漫談のようにユーモアとウィットたっぷりに話が進められる。それでも、統計や意識調査の欺瞞に対し、時に鋭い批判を浴びせているのは、実は最も自由な議論が生まれやすいスタイルであることを示している。

ブックレットシリーズ

『生活をつくる(作る・営る・創る)家庭科』1~3巻

- 日本家庭科教育学会 編
- ドメス出版 / 定価 各1,050円 (税込)

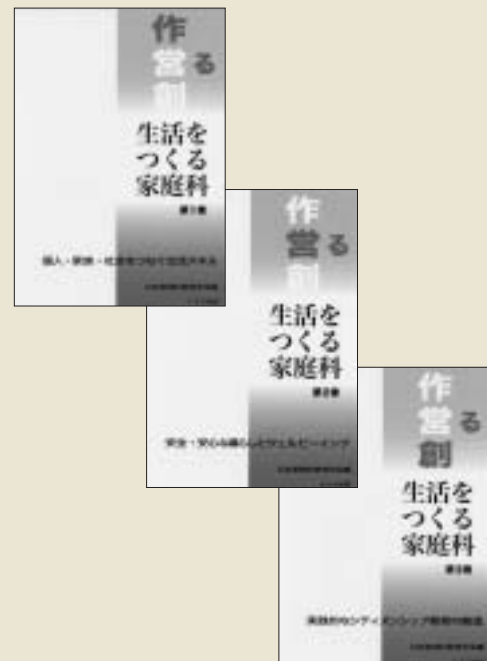
日本家庭科教育学会創立50周年の記念事業の一つとして本年6月に刊行されたもので、第1巻『個人・家族・社会をつなぐ「生活スキル」』/第2巻『安全・安心なくらしとウェルビーイング』/第3巻『実践的なシティズンシップ教育の創造』の3冊からなる。各巻とも、「なぜ、今、家庭科で なのか」の理論編と、「 の授業を読み解く」の実践編の2部構成で、家庭科が現代の教育課題に応える教科であることをわかりやすく、家庭科教育の内外に向けて発信している。

第1巻は「つくる」=「作る」であり、技能・技術に関して、社会との相互関係のなかでの「生活スキル」や豊かな生活を目指すための有用な技術という視点を提示している。

第2巻は「つくる」=「営る」であり、「安全・安心」を「トータルとしての暮らし」をみつめる重要な視点と位置づけ、そこからウェルビーイングのとらえ直しを行っている。

第3巻は「つくる」=「創る」であり、次代の市民を生み出す学校教育、しばしば家庭科教育でもいわれる「生活主体」の中身を問い直している。

長年の家庭科教育の蓄積に加え、気鋭の研究者による新たな視点もあり、50周年の節目にふさわしい刊行物となった。



教育課程情報

- 学習指導要領の改訂に向け、中教審の家庭、技術・家庭、情報専門部会で検討されている高校家庭科の課題としては、
 - ・子どもたちが、自己と家庭、家庭と社会とのつながりに目を向けるとともに、生涯の見通しをもって、よりよい生活を追求できる実践力を身に付けることが必要
 - ・少子高齢化の進展や家庭の機能が十分に果たされていない状況から、家庭の在り方や家族の人間関係や子育てについて学習し、生活における自立とともに、他の人と連携し共に生きるための知識と技術の習得が必要
 - ・食生活の乱れや消費者トラブルの増加などから、食育や消費者教育の充実が課題
 - ・持続可能な社会の構築の観点から、資源や環境に配慮した生活の工夫が課題などを挙げています。
- そのための改善の方向性とその改善例としては、以下のことが検討されています。

【高等学校の改善例】(検討素案)

高等学校においては、人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活を創造する能力と主体的に実践する態度を育てることを重視し、次のような改善を図る。

- (ア) 家庭を築くことの重要性、食育の推進、少子高齢社会における保育体験を通じた子育て理解、高齢者への肯定的な理解や支援する行動力の育成など、社会から求められている課題についての内容を重視する。
- (イ) 高校生の発達課題と生涯生活設計、キャリアプランニングなどの学習を通して、次世代を担うことや、生涯を見通す時間軸の視点を明確にするとともに、生涯賃金や働き方、年金などとの関係についての指導を加えるなど、生活を総合的にマネジメントするための内容を充実させる。
- (ウ) 生涯生活設計における生活経済や多重債務等の深刻な消費者問題、衣食住生活と環境とのかかわりなどについて、科学的に理解させるとともに、社会の一員として生活を創造する意思決定能力を習得させることを明確にする。
- (エ) 子どもの発達や高齢期の特徴など、人間の発達課題や人とのかかわり方、進展する少子高齢社会への対応、日本の生活文化への理解が深められるよう現行の内容を再構成する。
- (オ) 家庭科の学習と実際の生活を結び付け、生活の根底にある基本的な原理・原則について科学的に理解し、実践を通して学習したことを身に付けようとする課題解決学習としてのホームプロジェクトや家庭科で学習したことをさらに探究し、学校生活や地域社会の生活の充実向上を目指す学校家庭クラブ活動については、一層充実させる。
- (カ) 必修科目として、現行の「家庭基礎」(2単位)、「家庭総合」(4単位)、「生活技術」(4単位)の内容を改善し、科目の性格を明確にした上で、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じて、以下の3科目を設定し、いずれか1科目を選択履修させることとする。

・「家庭基礎(仮称)」(2単位)
青年期の課題である自立と共生の能力をはぐくみ、生活設計の学習を通して、衣食住の科学的な理解を深め、家庭や地域の生活を主体的に創造する能力や態度を育てる。内容は、人の一生やライフステージごとの課題と関連させた基礎的・基本的な内容から構成する。

・「家庭総合(仮称)」(4単位)
生命の誕生から死までの生涯を見通し、親の役割や子育て支援、人間の尊厳や高齢者の肯定的理解、介護、衣食住生活と生活文化や消費生活と資源・環境などについて総合的に扱い、実験・実習を通して科学的に理解を深めるとともに、主体的に家庭や地域の生活をマネジメントする力を育てる。内容は、青年期の自立と生活、生活の科学と環境、家族・家庭と社会、異世代とのかかわり、人の一生と生活設計などから構成する。

・「生活技術(仮称)」(4単位)
生活と文化とのかかわりを考え、生活の技術的、文化的な意味や価値への理解を深めるとともに、実験・実習を通して生活を営む実践的な力や生活を創造する力を育てる。内容は、食育を推進する上で食生活の文化と創造についての実践力を高めることを重視し、衣生活や住生活などの一部の項目については選択して履修できるように構成する。

開隆堂の高校家庭科用各種教材

好評発売中 家庭科ワークシート集

B4判 80シート
CD-ROM1枚 Windows版
ワード・一太郎対応
定価 6,300円(本体6,000円)
・学習場面に応じて必要なシートを複写し、生徒個々に配布して活用できる
・生徒の自主的・創造的な学習を促すことができる。
・各シートは、学習活動の内容によって、「課題」「調査/記録」「実験/観察」「計画」「技術のポイント」「発表/まとめ」「評価」「参考」などに活用できる。
・CD-ROMには、ワークシートの内容をデータで収録しているので、アレンジもできる。ワークシートの内容に加えて、調理の基本やミシンの操作などもアニメーションや拡大図で収録している。



ビジュアル栄養計算 (五訂増補版)



Windows XP/2000/NT4.0/98 対応
パソコンソフト
定価 12,600円(本体12,000円)
指導の手引き(B5判/80頁)付き
生徒用追加CD-ROM
定価 8,400円(本体8,000円)

『ビジュアル栄養計算』が五訂増補版食品成分表となってグレードアップ。ウィザードに従って操作するだけで、約1,000種類の料理データから、知りたい内容が簡単に計算でき、棒グラフやリーダーチャートで表示・判定ができます。

好評発売中 家庭科再発見



堀内かおる編著
望月一枝・西岡正江・濱崎タマエ著
A5判
152ページ
定価 1,890円(本体1,800円)

本書では小・中・高・大学におけるスケールの大きい家庭科の授業づくりと実践の詳細が示されており、家庭科教育の意義を再発見するとともに、学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、各学校・学級の状況に応じた家庭科の授業づくりのヒントを得ることができます。

家庭科 ACCESS 資料集 食品成分表付き



口絵+見返し
14ページ
本文
168ページ
(内 食品成分表32ページ)

定価
720円(税込)

- 教科書の学習を深めるために最適な資料(66テーマ)を掲載しています。
- 豊富な統計資料を、問題提起に基づいて生徒が考えを深められるように構成して提示しています。
- 多様な価値観の中から、生徒が自主的に生活のあり方を探求することができます。
- 見開き2ページで1つのテーマを構成しています。
- 食品成分表には1食分の目安を掲載しています。

食品成分表 (五訂増補)



B5判
272ページ
定価
730円(税込)

- 五訂増補日本食品標準成分表の全食品のデータを収録しています。
- 日常の食生活によく出る主要食品800の写真、グラフをカラー化し、視覚的に栄養成分が理解できます。
- 食品解説や栄養と調理に関する基礎知識、食生活と健康に関する資料は、食品への総合的な理解を広げられます。
- 1食分の目安を掲載しています。

好評発売中

家庭基礎 家庭総合 学習ノート



教科書準拠

体様：B5判 別冊解答書付

家庭基礎学習ノート 家庭総合学習ノート

明日の生活を築く	明日の生活を築く
本文 96ページ	本文 112ページ
定価	定価
500円(税込)	550円(税込)

ACCESS

Vol.10-4(通巻34号)
印刷所/興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8
発行所/開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
送料80円

平成19年10月10日印刷 平成19年10月18日発行 編集兼発行人 山岸忠雄
印刷所/興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8
発行所/開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1
03(5684)6121[営業] 03(5684)6118[販売] 03(5684)6116[編集]